

東雲ブロック連絡協議会



6月23日の午後、東雲ブロック連絡協議会が開催されました。この会は東雲中、向能代小、朴瀬小、竹生小が連携して9年間を見通した教育活動を展開することや小学校から中学校へ進学する際の生徒指導上の問題（いわゆる中1ギャップ）を解消することを目的として開催されています。

当日は各校の先生方が向能代小の授業を参観した後、学習指導部、生徒指導部、交流活動部の3部会に分かれて小・中連携の在り方について協議しました。学習や生活のルールを例にとっても、小・中学校がそれぞれ独自に実施するよりも、小学校での取組の上に立って中学校で発展させていく方が生徒にとってスムーズに受け入れられます。このような取組をできるところから実践していきたいと考えています。

道徳、社会科授業研究会

より効果的な授業の在り方を探ることを目的として定期的に授業研究会を企画しています。皮切りとして6月に道徳、7月に社会科の研究会が実施されました。

道徳は1年生で、高橋聡先生と八田希先生がチームを組んで実施しました。主題は「かけがえのない生命の尊さ」

です。東日本大震災で災害にあった人々の思いや残された人々の思いを通して、自分に与えられた「いのち」の意味について深く考える授業です。重いテーマですが、生徒は真剣に考えました。亡くなったお母さんに対する家族の思いに対し言葉を振るわせる生徒も。自分のいのちは家族や周囲の人たちから支えられている存在であることに気付きました。最後には岩手県宮古市から交流派遣されている高橋先生の実体験からのお話で締めくくりました。



道徳での意見発表の様子

社会科は、松下理紗子先生が2年B組で地理の授業をしました。中国・四国地方の過疎問題についてです。資料から山間地の町村、離島の町村で実施されている過疎対策について調べ、それらを比較して共通点を探ることで、「地元の資源を活用していること」「幅広い年代が関われる仕事であること」「持続可能であること」など多くの気づきを得ることができました。



社会科でのグループ討議の様子